



「未来の東京」戦略（案）

令和3（2021）年2月
東京都

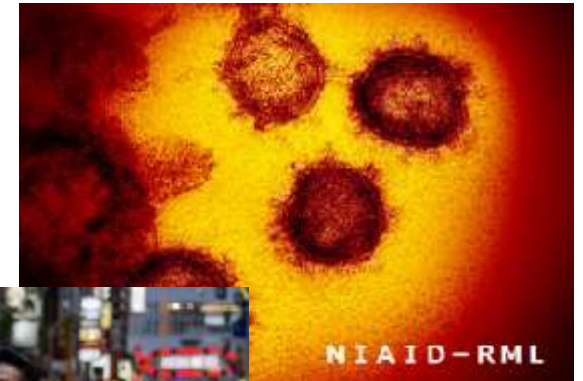
1 ～渋沢・後藤の精神を受け継ぎ、新たな地平を切り拓く～

大きな危機を乗り越え 人類、そして豊かな地球を未来へ

今、人類は、「感染症の脅威」と「気候危機」という、大きな危機に直面している。
この2つの大きな危機を克服し、明るい未来を切り拓き、豊かな地球を次代へ引き継がなければならない。

新型コロナの感染拡大

- ◆ 2019年12月に初めて確認された**新型コロナ**は、瞬く間に世界中に広がった。2020年3月には世界保健機関（WHO）が、世界的な大流行を意味する「パンデミック」を宣言。数次にわたる感染拡大の波、感染力が強いとみられる変異株の発生など、感染は長期化かつ深刻化し、我々は、**厳しい闘いの真ただ中**にある。
- ◆ 社会経済活動の制限、外出や移動の自粛、医療体制の逼迫。新型コロナとの闘いは世界に甚大な影響を及ぼし、**人々の生命**に加え、当たり前だと思っていた「**普通の日常**」をも奪い去った。
- ◆ 人類と感染症の歴史は深く、その始まりは紀元前からとも言われている。これまで**未知の感染症**と闘ってきた人類は、今再び、**乗り越えなければならない大きな危機に直面**している。



気候危機

- ◆ 人類の未来を脅かしているのは感染症だけではない。毎年のように、地球温暖化が一因ともされる森林火災や記録的な猛暑、豪雨などの自然災害に見舞われており、気候変動の影響は人々の身近な生活領域にまで及んでいる。**地球環境を取り巻く問題は、歴史的な転換点**を迎えており、まさに「**気候危機**」と呼ぶべき状況である。
- ◆ 新型コロナによる社会経済活動の停滞で、二酸化炭素排出量が大幅に減少し、大気環境には改善がみられた。これを奇貨に、**脱炭素に向けて行動を大きく変える契機**としなければならない。
- ◆ どんな行動をとればどんな未来が待っているか。**ポイントオブノーリターン**（引き返し不能点）に差ししかかっているという危機感を強く持ち、取組を加速していく必要がある。かけがえのない豊かな地球を将来に遺すに、**ラストチャンスである今の選択が、未来の地球の運命を握っている**。

※ デジタル地球儀

リアルタイムの気象情報や生物の移動、地球温暖化の状況など、地球の過去・現在・未来を映し出すことができるデジタル技術を活用した世界初のインタラクティブ（双方向）な地球儀（開発製作：NPO法人Earth Literacy Program）

デジタル地球儀※が表す地球の変化



QRコードを読み取ると、地球温暖化の未来予測の動画をご覧いただけます。

国連のIPCC（気候変動に関する政府間パネル）が示した排出シナリオのうち、最も気温上昇が高くなるシナリオ（4℃前後の上昇を予測するRCP8.5シナリオ）に基づく、2100年の地球の状況を表したものだ。赤⇒黄色⇒白へと色が移り変わるにつれて、気温の上昇幅が大きくなる。（シミュレーション・データ提供：国立環境研究所）

大胆な展望により、持続可能な「未来の東京」を切り拓く

過去の幾多の困難に対して、渋沢栄一や後藤新平をはじめとする偉大な先人たちは、「持続可能性」を希求し、先見性と確固たる信念、絶え間ない努力で乗り越え、東京・日本の礎を築いてきた。

経済や社会の姿が大きく変貌を遂げる今だからこそ、先人たちの精神を受け継ぎ、これまでの延長線にとらわれない大胆な発想で未来を構想し、果敢に挑戦を積み重ねていかなければならない。



渋沢栄一（写真：国立国会図書館）
<1840 - 1931>

養育院初代院長

渋沢栄一 ～誰一人取り残さない社会の実践「道徳経済合一説」～

- 日本資本主義の父と呼ばれる渋沢栄一は、多くの企業設立に携わる一方で、私利を追わず公益を図るとの信念のもと、当時の東京府・東京市が運営した養育院の初代院長を半世紀にわたり務めるなど、約600もの社会貢献活動に尽力した。
- また、人間らしい生活を送ることができる緑豊かな環境を提供するため、郊外に住宅都市を建設する事業にも取り組んだ。この事業は、鉄道沿線のまちづくりの原型となっており、東京のまちづくりに大きな影響を与えている。
- 「国全体が豊かになるためには、経済発展の利益を独占するのではなく社会に還元することが大切である」という渋沢が唱えた「道徳経済合一説」は、誰一人取り残さない、多様性と包摂性に富んだ持続可能な社会を追求するという意味で、我々への示唆に富んでいる。

Shibusawa Eiichi



後藤新平 (写真：国立国会図書館)
<1857-1929>

第7代東京市長

後藤新平 ～100年経っても色褪せない「人間中心」の都市思想～

- 第7代東京市長を務めた**後藤新平**は、1923年の関東大震災後、帝都復興院総裁として、**「帝都復興計画」**を策定した。当時の国家予算を大きく超える壮大な計画は「大風呂敷」と言われたが、昭和通り、靖国通りなどの道路や隅田公園をはじめとする公園など、**現在の東京の都市基盤の骨格が整備**された。
- 日清戦争当時、**コレラ**が大流行していた中国から帰還する約20万人の兵士に対して、瀬戸内海の島々に検疫施設を整備し、3か月で検疫を成し遂げた。さらに、台湾総督府民政局長時には、衛生環境改善に尽力し、台湾の**公衆衛生の礎**を築いた。**「人間中心」の都市思想**や、世界でも前例のない大規模検疫を実施した**大胆な発想と実行力**に学ぶべきものが多い。

Goto Shinpei

今、問われているのは**「持続可能性」**である。豊かな地球・安全安心な社会を次の世代へつないでいけるかは、**今後10年間の具体的な「行動」**にかかっている。**渋沢栄一と後藤新平**をはじめとした**先人たちの精神を受け継ぎ**、我々の行動で**新たな地平を切り拓いて**いかなければならない。

「『未来の東京』戦略」は、大都市東京の責務として、**地球規模の大きな課題に果敢に挑戦**し克服する中で、**成長と成熟が両立した持続可能な都市・東京**を創り上げていくための羅針盤である。

未来の東京を創り上げるために

50年、100年先も豊かさにあふれる持続可能な都市をつくる

◆ コロナ禍から持続可能な回復を遂げる

- ▶ 欧州を中心に、気候危機への対処を図りながらコロナ禍から「**より良い復興**」を目指す「**グリーンリカバリー**」の流れが生まれている。
- ▶ 都は、この流れを**持続可能な生活を実現する観点にまで広げた「サステナブル・リカバリー（持続可能な回復）」**を進めていく。



◆ 自然と便利を兼ね備えた都市づくりを進める

- ▶ 人々が心豊かに安心して暮らせる社会を享受するためには、デジタル化による**利便性**の追求に加え、**環境との共生**など、多様な魅力を兼ね備えた都市へ進化していく必要がある。
- ▶ 都市の集積のメリットを活かしつつ、**自然を感じられる都市**、**徒歩圏内で生活できる人を中心に据えた都市**など、環境負荷低減と経済成長が両立する都市づくりを進めていく。



◆ グリーンシフトで成長産業と新サービスを育成する

- ▶ 地球目線で考え、環境課題に向き合っていく。**環境への取組を「コスト」ではなく「投資」と捉え、官民を挙げてグリーンシフトを推進**する。
- ▶ **グリーンファイナンス市場の創設**をはじめ、脱炭素に向けた取組で世界をリードし、**成長産業と新サービスを育成**していく。



「爆速」デジタル化で世界からの遅れを乗り越え、国際競争に打ち勝つ

◆ DXの推進で「未来の東京」を切り拓く

- ▶ スマート社会では、行政や民間企業等が有する**ビッグデータが都市の大きな強み**となる。**都市のDX（デジタルトランスフォーメーション）**を進めて**新しい価値の創出**につなげていく。
- ▶ 新型コロナを契機に、あらゆる分野で**DXを強力に推進**し、**「未来の東京」**を切り拓く。



◆ 行政のデジタル化を徹底する

- ▶ 行政のデジタル化が進む国は、**スマートフォンで完結する世界**である。あらゆる手続きをスマホからワンストップで解決するため、書類やはんこが必要な**アナログ世界から抜本的に転換**する。
- ▶ **ユーザー（都民）目線**で一刻も早く**行政のデジタル化**を成し遂げる。



◆ デジタルデバインドで取り残される人を生まない

- ▶ コロナ後の社会は、**デジタルが基幹インフラ**になる。環境による格差を生まないため、いかに**誰もが使えるものとしていくか**が重要である。
- ▶ 高齢者、障害者など、オンラインで情報を得ることが難しい人へのきめ細かいサポートなどを通じて、**デジタルデバインド（情報格差）で取り残される人を生まない社会**をつくる。



「新しいつながり」を紡ぎ、安全安心な「新しい暮らし」を追求する

◆ リアルとバーチャルで多様な人がつながる社会をつくる

- ▶ 外出自粛により、従来のリアルな「つながり」が制約されたことで、若年世代を中心にオンラインでの交流が進んだ一方で、多くの人が人と人の「つながり」の重要性を再認識した。
- ▶ コロナ禍を通じて得られた経験を活かし、リアルとバーチャルのハイブリッドにより、「新しいつながり」を紡ぎ出し、新しい日常が定着した社会を創り上げていく。



◆ 誰もが自分らしく生活できる環境を確保する

- ▶ 新型コロナが様々な人々の生活に大きな影響を与える中、誰一人取り残さない包摂的な社会を実現していく必要がある。
- ▶ セーフティネットの更なる充実や、時代の変化に合わせたリカレント教育や職業訓練など能力開発の機会の増加、新たな労働スタイルに合わせたサポートなどにより、「人」の持つ潜在能力を引き出し、誰もが自分らしく生活できる環境を整えていく。



「『未来の東京』戦略」を展開するスタンス

新型コロナによる人々の価値観や社会のあり様の変化を展望し、「構造改革」と「サステナブル・リカバリー」の2つの大きな考え方を「未来の東京」戦略の軸に据えて、政策を展開していく。

「構造改革」を強力に推進

～課題の根源まで踏み込んで改革を推進～

- 新型コロナの危機は、テレワークの普及など、私たちの暮らしや働き方に大きな変化をもたらすと同時に、デジタル化の遅れなど、日本社会が抱える**構造的な課題**を改めて浮き彫りにした。
- デジタル化やモビリティ革命、脱炭素化の動き、自然と都市機能の調和、国際金融センターなど、都を取り巻く環境の厳しさに強い危機感を持ち、ギアを上げて取組を加速していかなければ、**世界の競争から大きく取り残されかねない**。
- 国難ともいえる危機に直面している今だからこそ、変革の本質を見極め、課題の根源まで踏み込んで**構造改革を強力に推進**していく。

「サステナブル・リカバリー」の実現

～強靱で持続可能な社会へ～

- 政策展開に当たっては、新型コロナで疲弊した経済、社会、人々のマインドを回復させながら、**未来に向けた復興を目指す**必要がある。
- 気候危機への対処を図りながら経済復興を目指すという世界の潮流を、環境だけでなく、**人々の持続可能な生活を実現する観点にまで広げた「サステナブル・リカバリー（持続可能な回復）」**を進めていく。
- **単に新型コロナ以前の社会に戻すのではなく**、「サステナブル・リカバリー」の視点から政策のバージョンアップを図り、状況の変化にしなやかに対応しながら、新たな価値を生み出す**強靱で持続可能な社会**を創り上げていく。



「『未来の東京』戦略」を貫く基本戦略

「『未来の東京』戦略」は、4つの「基本戦略」の下に、「目指す2040年代の姿」を描き、その実現に向けた「2030年に向けた戦略」と、戦略を推進する「推進プロジェクト」に都庁の総力を挙げて取り組んでいく。

基本戦略1

バックキャストの視点で将来を展望する

- 不確実性が増す中であって、従来の延長線上の発想ではなく、時代の先を見据えた取組を進めていかなければならない。より長期的な視点を持ち、想像力を働かせ、大胆な発想で政策を考える必要がある。
- まず、目指すべき未来を想定し、そこから逆算して、現在からそこに至る道筋を定めるバックキャストの手法を取り入れる。
- その際、少なくとも一世代先を見据えた取組が必要であることから、今の子どもたちが大人になり社会で活躍し、団塊ジュニア世代が高齢期を迎える時期である、おおむね四半世紀先の2040年代を念頭に議論する。

基本戦略2

民間企業等、多様な主体と協働して政策を推し進める

- 人々の価値観や社会構造が変化する中、都民目線に合った行政サービスを提供し続けるためには、都庁だけでなく、社会課題の解決に役割を果たす民間企業を含む、多様な地域社会の担い手との連携・協働が不可欠である。
- NPO等はもちろんのこと、例えば、ソーシャルアントレプレナー（社会的企業家）や課題解決型のスタートアップ、デジタルを活用するシビックテックなどは、社会をより良いものに変える斬新なアイデアを生み出し、社会課題の解決に貢献している。
- 東京というフィールドで活躍する、多様な主体と様々な形で連携・協力する協働スタイルを定着させ、政策を強力に推し進めていく。

基本戦略3

デジタルトランスフォーメーション（DX）*で「スマート東京」を実現

- 生活のあらゆる場面において、スマートフォンをはじめ、ICTやインターネットといったデジタルを通じてサービスが提供されることが当たり前の社会が到来する。デジタルの力で都政のQOS（クオリティ・オブ・サービス）を飛躍的に向上させる。そして、都民のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を高めていく必要がある。

- 都民の様々な課題を解決するために、ツールとしてデジタルトランスフォーメーション（DX）がある。都が進める政策推進に当たって、AIやIoT、その基盤となる5Gネットワークといった先端技術を積極的に活用することにより、都市全体がスマート化し、全ての人々が快適に暮らし働くことができる社会を築き上げていく。

* ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させるという概念

基本戦略4

時代や状況の変化に弾力的に対応「アジャイル*」

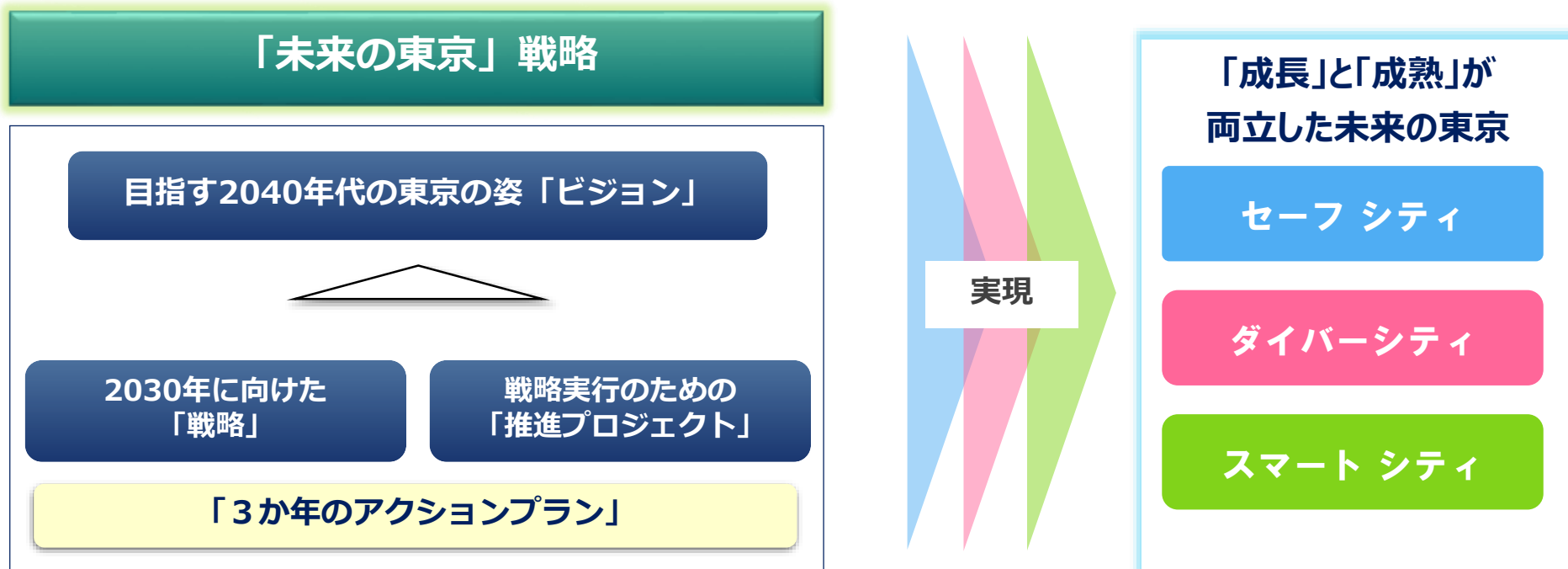
- 「『未来の東京』戦略」において示す、目指す未来の東京の姿の実現に向かって、都庁の総力を挙げて取組を進める。

- もとより、一朝一夕に実現できるものではなく、目指す姿に到達する道筋も一つではない。取組の進捗や社会環境の変化により、更に良い方法やより効率的な方法が見つかる場合もある。時代や状況の変化に応じて、戦略やプロジェクト自体も弾力的に対応（アジャイル）し、その内容を見直していく。

* 「アジャイル (agile) = 俊敏な、すばやい」の言葉の意味から、時代や状況の変化に柔軟かつ迅速に対応すること

未来の東京の実現に向けた「ビジョン」と「戦略」

- **「人が輝く」を中心に**、「安全安心」「世界をリードする」「美しい」「楽しい」「オールジャパンで進む」東京をベースとして、**目指す2040年代の東京の姿**である「**ビジョン**」を提示する。
- この「ビジョン」を実現する**2030年に向けた「戦略」**と戦略実行のための「**推進プロジェクト**」によって、「**3つのシティ**」が進化し、「**成長**」と「**成熟**」が両立した**未来の東京**を実現していく。



※ 「未来の東京」戦略は、新たな都政の羅針盤として策定する都の総合計画であり、「まち・ひと・しごと創生法」（平成26年法律第136号）第9条第1項にいう「都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付ける。本戦略に記載する政策目標については、同戦略上の重要業績評価指標（KPI）として位置付ける。

我々が目指す2040年代の20の「ビジョン」

おおむね四半世紀先である2040年代を念頭に、我々が目指す「未来の東京」の姿を提示



- 01 子供の笑顔と子供を産み育てたい人で溢れ、家族の絆と社会が支える東京
- 02 新たな教育モデルにより、すべての子供・若者が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ東京
- 03 女性が自らの希望に応じた生き方を選択し、自分らしく輝いている東京
- 04 高齢者が人生100年時代に元気に活躍し、心豊かに暮らす東京
- 05 誰もが自分らしくポジティブに働き、活躍できる東京
- 06 様々な人が共に暮らし、多様性に富んだ東京
- 07 誰もが集い、支え合う居場所・コミュニティが地域の至る所に存在する東京
- 08 災害の脅威から都民を守る強靱で美しい東京
- 09 犯罪、事故、火災への対処、病気への備えなど、暮らしの安心が守られた東京
- 10 高度な都市機能と自然が調和し、人が集い、憩う東京
- 11 最高の交通ネットワークが構築された便利で快適な東京
- 12 デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出し、都民が質の高い生活を送る「スマート東京」(東京版Society 5.0)
- 13 世界中からヒト・モノ・カネ・情報が集まる、世界一オープンな東京
- 14 次々と新しい産業が生まれる、世界一のスタートアップ都市・東京
- 15 世界一の高い生産性を実現した、世界経済を牽引する東京
- 16 水と緑を一層豊かにし、ゆとりと潤いのある東京
- 17 ゼロエミッション東京
- 18 文化やエンターテインメントで世界を惹きつける東京
- 19 スポーツが日常に溶け込んでいる、スポーツフィールド・東京
- 20 全国各地との連携を深め、真の共存共栄を実現した東京



2030年に向けた「戦略」と「推進プロジェクト」

「ビジョン」の実現に向け、2030年に向けて取り組むべき20+1の戦略を提示

20+1の「戦略」

戦略0 感染症に打ち克つ戦略

戦略1 子供の笑顔のための戦略

戦略2 子供の「伸びる・育つ」応援戦略

戦略3 女性の活躍推進戦略

戦略4 長寿（Chōju）社会実現戦略

戦略5 誰もが輝く働き方実現戦略

戦略6 ダイバーシティ・共生社会戦略

戦略7 「住まい」と「地域」を大切にする戦略

戦略8 安全・安心なまちづくり戦略

戦略9 都市の機能をさらに高める戦略

戦略10 スマート東京・TOKYO Data Highway戦略

戦略11 スタートアップ都市・東京戦略

戦略12 稼ぐ東京・イノベーション戦略

戦略13 水と緑溢れる東京戦略

戦略14 ゼロエミッション東京戦略

戦略15 文化・エンターテインメント都市戦略

戦略16 スポーツフィールド東京戦略

戦略17 多摩・島しょ振興戦略

戦略18 オールジャパン連携戦略

戦略19 オリンピック・パラリンピックレガシー戦略

戦略20 都政の構造改革戦略

- 未来の東京を切り拓くために、**新型コロナに打ち克つ取組を戦略0**に位置付ける
- 政策面からの視点である3C（Community、Children、Chōju）を、戦略の核に据える

122の「推進プロジェクト」

- 戦略ビジョンに盛り込んだ戦略実行のための「推進プロジェクト」をもとに、**新型コロナの影響**を踏まえて、全体を再構築し、**122の「推進プロジェクト」**として整理している。
※必要に応じて組織横断的な推進チームを設置し、取組の具体化を図る。
- 「推進プロジェクト」ごとに、取組内容やスキームを**ビジュアルで分かりやすく示す**とともに、具体的な施策である「**3か年のアクションプラン**」と2030年への展開を示している。
- 「推進プロジェクト」ごとに、**SDGsの17のゴールとの関係**を明らかにしている。

「未来の東京」の創出をリードする 主要プロジェクト

- 東京ベイeSGプロジェクト
- ゼロエミッション東京・水素社会実現プロジェクト
- 「国際金融都市・東京」実現プロジェクト
- TOKYO Data Highwayプロジェクト
- チーム2.07プロジェクト

- 新たな「東京型教育モデル」推進プロジェクト
- 自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクト
- 「みんなの居場所」創出プロジェクト
- 新たな時代の働き方支援プロジェクト
- 生涯を通じたキャリア・アップデートプロジェクト

- 人中心の歩きやすいまちづくりプロジェクト
- 緑溢れる東京プロジェクト
- 無電柱化推進プロジェクト
- 魅力ある観光コンテンツ創出プロジェクト
- 世界一的美食都市実現プロジェクト

東京ベイ e S G プロジェクト ～東京湾から日本の未来を創り出す～

- 東京ベイエリアには、日本を代表する物流ターミナルに加え、商業機能、エンターテインメント、東京2020大会関連施設など多様な魅力を持つ「臨海副都心」や、将来的には約1,000haの広大な土地となる新しい埋立地といったポテンシャルが存在
- このポテンシャルを活かし、ベイエリアにおいて、デジタル時代においても「ここにしかない」魅力を求めて人々が集まる「自然」と「便利」が融合する都市モデルを実現

戦略9 都市の機能をさらに高める戦略

「感染症の脅威」と「気候危機」の2つの危機を乗り越えた先にある未来の東京の都市の姿を構想し、具体的な「社会の構造改革」を速やかに実装

「持続可能性」と「経済・金融」を両立するため、最先端の「DX」を鍵に未来の都市像を描く

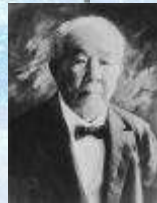
e 環境 (environment) に加え、**E** コロジー (ecology)、**e** 経済 (economy)、新時代を切り拓く**画期的な技術 (epoch-making)**

偉大な先人たちの精神を受け継ぎ、50年・100年先の未来の東京を創る

S 渋沢栄一

持続可能な社会の実践

- 約500の企業設立を主導
- 養育院等福祉事業への貢献
- 女性教育の推進



渋沢栄一
(写真：国立国会図書館)

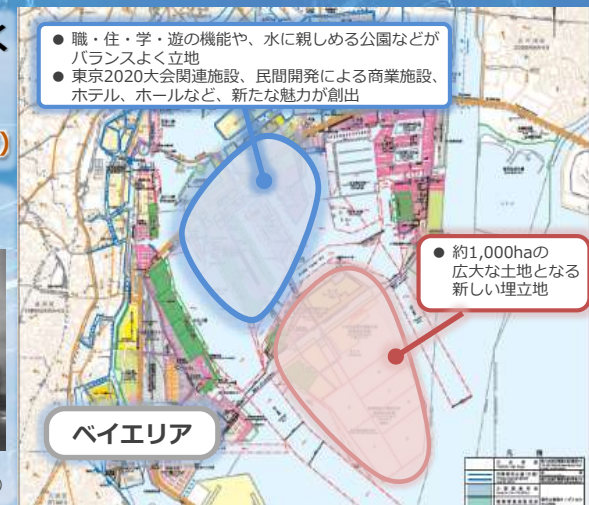
G 後藤新平

100年先を見据えた都市づくり

- 関東大震災後の帝都復興計画
- 台湾の近代化
- 日清戦争帰還兵のコレラ上陸阻止プロジェクト



後藤新平
(写真：国立国会図書館)



※本来の「ESG」(Environment, Social, Governance) の概念も含む

ベイエリアを舞台に、「自然」と「便利」が融合する持続可能な都市を創る

実現に向けた戦略

100%クリーンエネルギー、ゼロエミッションを実現

最先端のデジタルテクノロジーを実装

グリーンファイナンスを活用したプロジェクトの展開

サステナブルな都市・交通ネットワークを充実

Step I (2021~2030) : ベイエリアから世界最先端を取り戻す

グリーンファイナンスを活用したプロジェクトの展開

- ✓ 「Tokyo Green Finance Market (仮称)」の活用によりグリーンTech企業が集積し、様々なプロジェクトを展開

ZEVを活用したマルチモーダルな交通体系

- ✓ ZEV、燃料電池船等の活用により、域内の移動や、都心・羽田空港等とのアクセスを飛躍的に向上

空間的広がりを活かしたデジタル都市

- ✓ DXの一早い実現により、キャッシュレス、医療など様々な分野で革新的なサービスを提供

世界中の人々を魅了する「遊び場」

- ✓ ポップカルチャーから、食文化、伝統芸能、スポーツまで、リアルとバーチャル双方で楽しめる場

テクノロジーの巨大実装エリア

- ✓ 大胆な規制緩和により自由度の高い実験が可能なエリアとして、ドローン、空飛ぶクルマ、自動運転等の大規模な実装を展開

Step II (2030~2050) : アジアを代表するイノベーションセンター

ゼロエミッションのまち

- ✓ 域内使用エネルギーの100%脱炭素化

デジタル×イノベーション都市

- ✓ プロジェクトの取組が進化し、交通、物流、医療、エネルギーなど世界初のイノベーションが次々と創出

スタートアップの集積拠点「Startup Village」

- ✓ テクノロジーの大規模実験が可能な環境の中に、国内外のスタートアップが集積する一大拠点を形成

Step III (2050以降) : 新しい価値を生み続ける世界のモデル都市

世界に先駆けた22世紀型の未来都市

- ✓ 空や地下空間、海上、海中などあらゆる場所で生活できる22世紀型のまちにリプレース

世界の玄関口として人々が交流する「海と緑と調和した都市」

- ✓ 大学やエンターテインメント施設、商業施設等が立地し、世界中の人・モノ・情報が集積する「東京の顔」

Step I のイメージ



Step II・IIIのイメージ



ゼロエミッション東京・水素社会実現プロジェクト

- 2050年までに「ゼロエミッション東京」を実現するため、「気候非常事態を超えて行動を加速する宣言」に基づき、あらゆる手段を用いて、具体的な取組を推進

戦略14 ゼロエミッション東京戦略

東京が環境先進都市として世界をリード

日本の首都・世界の大都市として、気候変動対策について意欲的な目標を提示

温室効果ガス削減：2030年までに、2000年比**50%削減**

再エネ電力利用：2030年までに、電力利用割合**50%程度**



「2030年・50%削減」の実現に向けて「**2030・カーボンハーフスタイル**」を提起し、

気候変動への取組を**これまで以上に深化**

行動を加速!!

都が先導的な取組を進め、世界のショーケースとなるよう**ゼロエミッション東京戦略**をバージョンアップ

▶▶ 気候変動対策に係るあらゆる施策について、サステナブル・リカバリーの視点に立って強化を図っていく

都内新車販売の**乗用車を2030年までに
二輪車を2035年までに** 非ガソリン化

2021年度を「非ガソリン化元年」と位置付け、**包括的に取組**を実施

車両（購入・開発）

- 国と連携した補助額の上乗せなどによる車両補助の拡充
- 開発促進型補助の検討



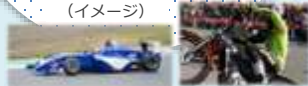
インフラ整備

- 充電設備補助の拡充
- EVバイクのバッテリーシェア導入支援



普及啓発

- EVやFCVを用いたレースや、EVバイクを用いたイベントの開催等によるムーブメントの創出（イメージ）



水素社会実現プロジェクトを新たに創設

水素関連 企業間連携の推進

- 水素関連企業と連携
- 商用FC車両など、首都圏の水素需要を創出



「東京水素イニシアティブ」オンライン会議の様子

まちづくりでの 再エネ由来水素の活用

- 再エネ由来水素設備などの先端技術を取り入れた取組を推進



燃料電池自動車の拡大

- FCV・FCバスや水素ステーション補助の拡大
- マルチエネルギーステーション化の支援

燃料電池自動車



「国際金融都市・東京」実現プロジェクト

- 東京が持つ強みを活かした戦略的取組を展開し、世界・アジアの金融ハブ「国際金融都市・東京」としての地位を確立
- 激動する国際金融情勢をチャンスと捉えて取組を加速化し、世界に冠たる国際金融都市としての地位を盤石にするため、構想を改訂

戦略12 稼ぐ東京・イノベーション戦略

世界中から金融系企業や人材を集積

金融プロモーション組織「FinCity.Tokyo」

- ▶ 外資系含む金融関係者等45者が参画（2020年12月現在）
- ▶ 国内外での金融プロモーション活動やEMP（Emerging Managers Program）の普及促進などを担う

メンバー	事業内容
<ul style="list-style-type: none"> ・東京都 ・デベロッパー ・金融機関 ・金融業界団体 ・事業会社 ・スタートアップ 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信 ・ネットワーキング ・金融系外国企業の誘致 等

金融系外国企業・人材の進出支援

▶ 誘致プロジェクトチーム「Team Invest Tokyo」

公的機関、FinCity.Tokyo、海外現地機関、金融機関、事業会社等のメンバーと連携し、誘致事業を展開

▶ 特区制度等を活用した誘致施策を展開

金融フロンティア支援 サービス 補助金によるインセンティブ付与 等

▶ アジア情勢を踏まえた戦略的な取組

- ・ビジネスコンシェルジュ東京香港窓口を新設
- ・香港からの高度人材・企業進出ガイド
- ・一時的オフィス提供事業を展開

FinTech産業の育成

ファンドを通じ、FinTech分野で画期的な技術を有するスタートアップ等に対し、支援を実施

圧倒的アジア1位の国際金融センターへ

都市別GDP 世界1位 | 世界的な資本市場 | グローバル企業の集積 | 潤沢な個人資産 | 公共交通網の発達 | 社会の安心・安全 | 「楽しい」「おいしい」東京

サステナブルファイナンスに関する国際金融ネットワーク（FC4S）加盟都市（2020年11月時点）

海外金融センターとの連携

シティ・オブ・ロンドンとのMOU

金融イベント 金融教育 グリーンファイナンス 職員派遣

東京金融賞

東京の優れた金融サービスをPR

- ▶ 金融イノベーション部門
- ▶ ESG投資部門

TOKYO FINANCIAL AWARD

高度金融専門人材の養成

都立大学において金融人材養成プログラムを展開

ファイナンスプログラム

金融実務界のニーズが高い科目群を中心に実践教育を体系的に修得

データ分析 プログラミング | ファイナンス 演習・考究 | 海外大学 との交流

金融工学研究センター

- ・金融の実務家と研究者の交流の場を提供
- ・海外研究者との共同研究を実施

グリーンファイナンスで世界をリード

新たな市場の創設

Tokyo Green Finance Market（仮称）

東京にESGの知・技術・資金を集積する世界規模のマーケットを創設し、グリーンファイナンスの一大市場としての地位を確立

ESG

市場創設に向けた取組

- ▶ マーケット創設に向け、環境金融の有識者などによる検討委員会を設置・運営
- ▶ 環境金融の実務家等をプロフェッショナルスタッフとして招聘
- ▶ ESG債市場拡大に向けた調査
- ▶ ESG債市場拡大に向けた調査
- ▶ グリーンボンドを中心とした資金調達手法の検討

サステナブルエネルギーファンド（仮称）を創設

クリーンエネルギー拠点や再生可能エネルギーの発電所の整備等を実施

民間資金 出資 投資融資

① クリーンエネルギー拠点 ② 再生可能エネルギー発電所

サステナブルエネルギーファンド（仮称）

グリーンファイナンスを担う金融系外国企業の誘致

都内で事業を開始する際の新たな投資や専門機関等への相談費用等を支援

世界中からヒト・モノ・カネ・情報
を引き寄せるプロジェクトを
三位一体で推進

「国際金融都市・東京」実現プロジェクト

世界を勝ち抜く国際的ビジネス拠点の形成

高度人材・外国企業戦略的誘致プロジェクト

世界一オープンで強い経済・金融都市へ



TOKYO Data Highwayプロジェクト

- 通信事業者による5G基地局の設置促進や都内区市町村等との連携強化により、「つながる東京」を早期に実現
- 「スマート東京」先行実施エリアにおいて、5Gと先端技術を活用した分野横断的なサービスの都市実装を重点的に推進し、その成果を都内区市町村へ横展開することで、東京版Society 5.0「スマート東京」を実現

戦略10 スマート東京・TOKYO Data Highway戦略

※西新宿・南大沢はTDH重点整備エリア

「スマート東京」の実現

「つながる東京」の早期実現

都保有アセットの開放

- ◆ 都保有アセットデータベース掲載データを精緻化（緯度・経度情報を付加）
- ◆ 都保有アセット利用手続のワンストップ化
- ◆ 基地局建設に関するアドバイザーの配置
＜開放アセットの例＞



土地(神津島空港用地) 建物(東京ビッグサイト) 工作物(バス停)

他自治体との連携

- ◆ 都内区市町村や他道府県とアセット開放のノウハウを共有し、5Gネットワークを拡大

南大沢（東京都立大学）※

- 先端技術を活用したまちづくり
- 自動走行可能なモビリティ等の実証実験
- 都立大学のローカル5Gを活用した研究
- 大学発ベンチャーの活性化



自動運転車いす 自動運搬ロボット 東京都立大学ローカル5G設備

【施策展開のイメージ】

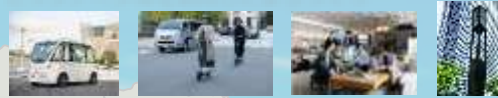
ホップ 特定エリアで先行的に実施

ステップ 東京都全域で展開

ジャンプ 全国へ展開（共存共栄）

西新宿※

- スマートポールを活用したデジタルサービスの実証
- 5Gを活用したサービスの公募・検証
- スタートアップの交流・支援施設の整備
- 5Gを活用した自動運転移動サービスの実証実験支援
- ビッグデータ等を活用したまちづくり



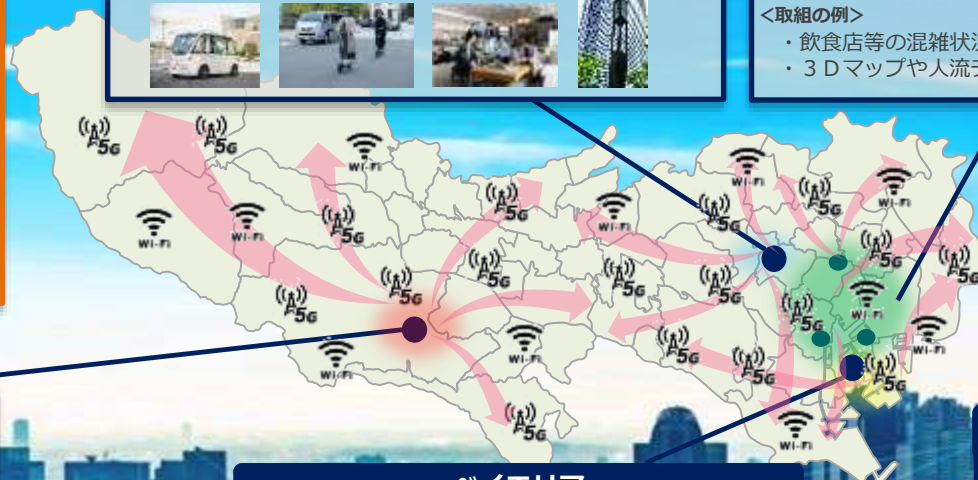
都心部

- 分野横断型の様々なサービスが連携可能な都市OSの構築を支援
- 都市OSに蓄積したリアルタイムデータを活用したサービスの実証を行い、順次実装

大手町・丸の内・有楽町 竹芝 豊洲

＜取組の例＞

- ・ 飲食店等の混雑状況の見える化
- ・ 3Dマップや人流データ等を活用した防災情報提供



ベイエリア

- 先端技術開発を担うスタートアップやeスポーツ関連企業等の進出を支援
- 自動運転技術を活用したビジネスモデルの構築を支援
- 最先端技術を活用したイベント支援など、まち全体をショーケース化



島しょ地域

- 八丈島において、小中学校における教育のデジタル化や5Gを活用した遠隔医療等のモデル事業を実施
- 八丈島での実証の結果を踏まえ、順次他の島へ横展開

島民生活をアップデート



<TOKYO Data Highwayを活用した取組を各分野で強力に推進>

セーフシティ

水防災情報の発信強化



- ▶ 水防災総合情報システムにおける雨量・水位・カメラ映像の統合表示や気象レーダーとの連携
- ▶ 河川監視カメラの動画公開や情報サービス事業者への水防災情報の提供

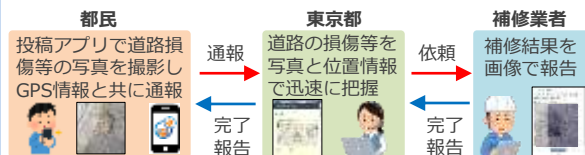
AIを活用したポンプ運転支援に向けた技術開発

- ▶ 幹線水位情報や東京アメッシュの降雨データ等をAIが自動解析し、雨水流入を予測
- ▶ AIによる予測結果を活用し、降雨時における最適な雨水ポンプの運転を支援



インフラ維持管理における住民協力の推進

- ▶ 都民がスマートフォンを活用し、道路の損傷等を通報



ロボットコンシェルジュによるお客様案内の充実

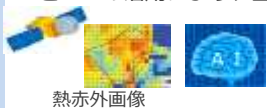
- ▶ 都営地下鉄駅において、AI等を活用したロボットコンシェルジュにより、人と人の接触を伴わない非対面での案内を実現
- ▶ 災害情報のご案内など防災等にも活用し、お客様案内を更に充実



ARISA

リモートセンシングを活用した空き家対策

- ▶ 人工衛星による熱赤外画像等のリモートセンシングデータとAIの活用により、空き家が多いエリアを検出



熱赤外画像

- ✓ 空き家調査のコスト削減
- ✓ 空き家の流通や利活用の促進

防災分野におけるデジタル技術の活用を推進（詳細は戦略8参照）

ダイバーシティ

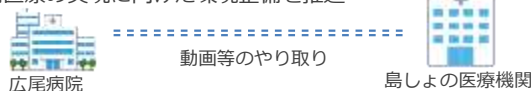
TOKYO スマート・スクール・プロジェクト

- ▶ 一人ひとりの能力を引き出す個別最適化された学びを実現するとともに、いかなる時でも学びを止めない環境を実現



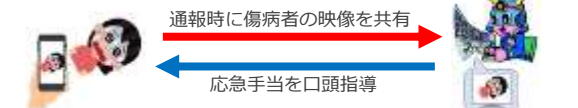
島しょ地域における遠隔医療の推進

- ▶ 島しょ医療の基幹病院である都立広尾病院を中心に島しょの医療機関との間で高精細動画のやり取りを行うなど、遠隔医療の実現に向けた環境整備を推進



応急手当等における映像通信技術の活用

- ▶ 映像コミュニケーション技術を活用した応急手当等の口頭指導体制の整備



障害のある方の就学・就労支援



分身ロボット

- ▶ 病院内教育で分身ロボットを配置し、障害のある子供の学びを支援
- ▶ 遠隔操作が可能なロボットや意思伝達システムを活用し、重度肢体不自由等の重度障害者の就労を支援

テレワーク・サテライトオフィス

- ▶ 5Gを活用した新たなワークスタイル実現のアイデアを募集し、モデルとして支援
- ▶ 都の空き庁舎を活用し、最先端技術を活用した次世代型シェアオフィスを設置



テレワーク推進センター

スマートシティ

スマートボールの整備・活用

- ▶ 西新宿において、5Gアンテナ、高速Wi-Fi、各種センサー等の多様な機能を搭載したスマートボールを設置
- ▶ スマートボールを通じて、気温・湿度・風向・気圧等のデータを取得し、暑さ対策等の施策に活用



水道スマートメータの導入

- ▶ 通信機能を搭載したスマートメータを導入

- ✓ きめ細かな使用量の把握
- ✓ 漏水等の早期検知
- ✓ 事業運営の効率化・最適化



(イメージ) スマートメータ

広報・広聴のデジタルシフト

- ▶ 都庁のHPを「バーチャル都庁」の窓口・コンシェルジュ機能を有するポータルサイトとして再構成
- ▶ HPのアクセス解析ツールを各局サイトに導入し、サイトの改善に活用

産業のデジタルトランスフォーメーション

- ▶ 「DX推進センター」において先端技術の試験機能を提供し、都内中小企業の5G・IoT・ロボットの製品開発を支援
- ▶ 5Gによる工場のスマート化を推進し、中小企業の生産性を向上



「DX推進センター」ローカル5G基地局

チーム2.07プロジェクト

- 子供、子育てを社会のトッププライオリティとし、「チルドレンファースト」の社会を創出することを目的として、東京都、区市町村、民間企業、大学、NPO等が連携し、「現在」「未来」の子供の笑顔につながる「こどもスマイルムーブメント」を展開

戦略1 子供の笑顔のための戦略



新たな「東京型教育モデル」推進プロジェクト

- 子供の学び方や教員の教え方を大きく転換する新たな「東京型教育モデル」の推進により、一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばし、誰一人取り残さないきめ細かな教育を実現

戦略2 子供の「伸びる・育つ」応援戦略

東京の強みを活かし、子供目線を大切にする「学び」への転換

学び方・教え方・働き方を転換する教育のデジタル化



「教員の経験知」と「テクノロジー」のベストミックス
学校での学習と家庭でのオンライン学習を活用した学習のハイブリッド化

個別最適化された学びや主体的・対話的な学びへ

⇒ 詳細は「TOKYOスマート・スクール・プロジェクト」へ

外部人材の積極的活用

- ✓ 専門性が高く授業を実施できる外部人材を講師として活用
【活用例】外国語教育、プログラミング教育等
- ✓ 特に教職に高い適性がある者を対象に特別免許状を授与できるルートを確立

小学校教科担任制の導入

- ✓ 推進校において、高度な指導力が求められる理科・体育について専科教員が授業を実践
⇒ 導入学年や対象教科等の拡充を順次検討
- ✓ 併せて研究開発協議会を立ち上げ、オンラインを活用した教育活動の事例を研究・開発

教員の資質向上

- ✓ オンライン研修の導入により、研修の質向上・子供と向き合う時間を確保
- ✓ 教職大学院等への派遣により、指導理論や優れた実践力等を習得 など

一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばす学び

■ Society 5.0時代を切り拓くイノベーション人材の育成

- ✓ STEAM教育などを通じ自らの人生を主体的に生き抜く力を育むとともに、AI・IoT等を駆使して新たなイノベーションを生み出すことのできる人材を育成

■ 専門的職業人材の育成

- ✓ 急速に進む技術革新に対応した新たな工業高校の姿を明らかにし、東京のものづくりを担う専門的職業人材を育成

⇒ 詳細は「Society 5.0時代の人材育成プロジェクト」へ

誰一人取り残さないきめ細かな教育

■ インクルーシブな教育の推進

- ✓ 障害の有無や国籍等にかかわらず、個々の教育的ニーズに的確に応え、多様な学びの場を備えたインクルーシブな教育を推進

■ 子供たちの心身の健やかな成長に向けたサポート

- ✓ 子供たちの悩みにきめ細かく応え、不登校児童・生徒の学習機会を確保するなど、学校や社会全体で成長を支援

⇒ 詳細は「学校や社会全体で子供を支えるプロジェクト」へ

新たな東京型教育モデル

～個性や能力に向き合いきめ細かくサポート～

■ 子供の意欲に応え能力を伸ばす高大連携教育プログラムの推進

- ✓ 様々な分野に特色・強みをもつ各大学と連携した、教育プログラムを展開
【連携大学例】東京都立大学、東京農工大学、電気通信大学、東京学芸大学

■ 子供・若者の起業家精神の醸成

- ✓ 小中学校の教育方針に沿った起業家教育プログラムの策定支援
- ✓ 実際に法人設立を目指す高校生向けの養成プログラム等を実施

■ 世界に羽ばたきグローバルに活躍する人材の育成

- ✓ 外国人の子供との学びや海外での実体験等を通じて、高度な語学力と豊かな国際感覚を身に付けるプログラムを展開

⇒ 詳細は「『GLOBAL Student』プロジェクト」へ

■ 幼小の接続を円滑にする連携プログラムの展開

- ✓ 就学前教育と小学校教育の一層の円滑な接続を図るため、区市町村と協働研究を実施し、幼小連携プログラムを開発・展開



■ 自ら考え課題解決につなげる探究的な学びを展開

- ✓ 都立高校において、探究的な学びを通じて地域社会が抱える課題の解決を図り、地域の将来を担う人材を育成
- ✓ 指定校を中心とした大学、企業等によるコンソーシアムを構築し、専門的な知見を活用した研究活動を推進

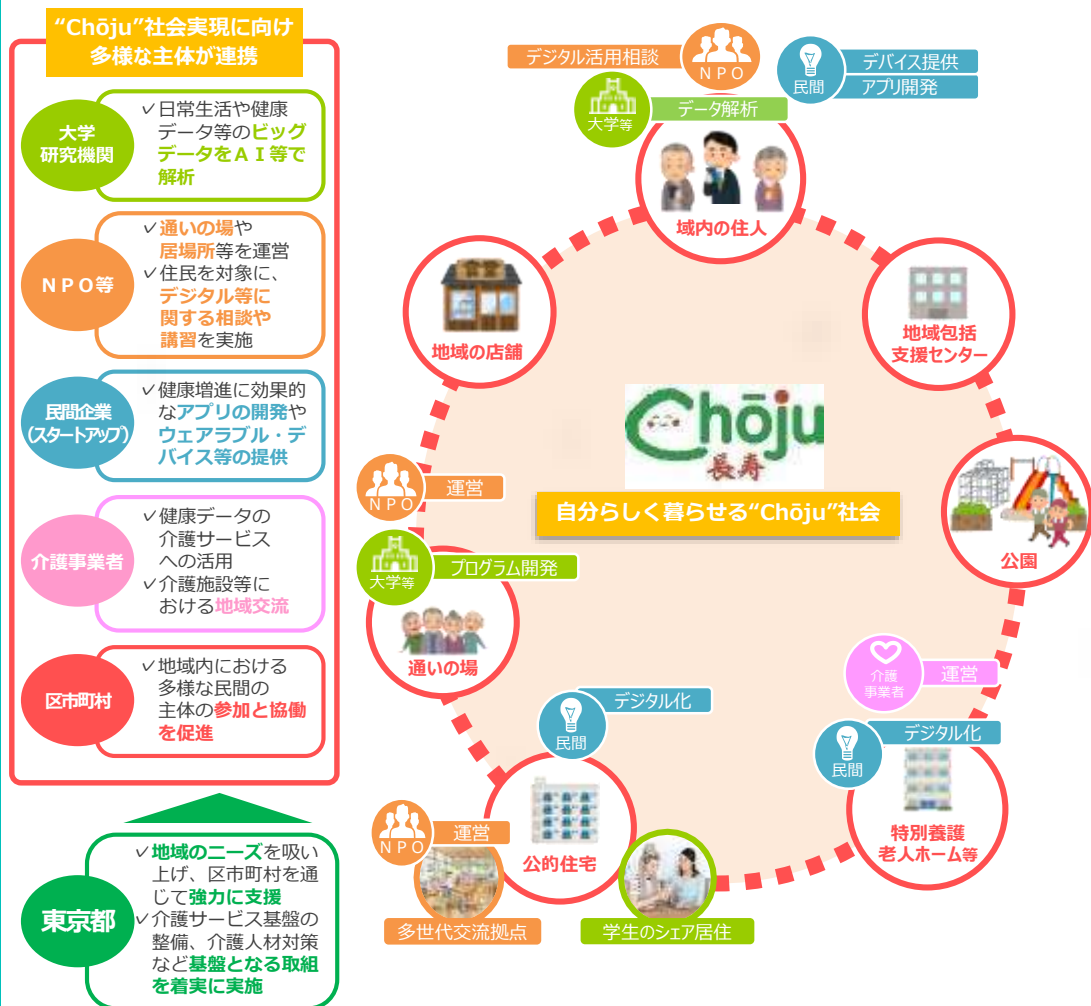
【探究課題の例】

- 安全なまちづくりと防災
- 地場産業の振興と地域への就労 など

自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクト

- 高齢者をはじめ、誰もが元気で心豊かに、自分らしく暮らせる地域の実現に向けて、意欲ある区市町村が多様な主体と連携し、地域資源を活用しながら、デジタルデバイス対策や幅広いデジタル活用により、QOL向上を図る取組等を都が強力に支援。成果検証し、都内全域に展開

戦略4 長寿（Chōju）社会実現戦略



人中心の歩きやすいまちづくりプロジェクト

- 道路空間や駅周辺のリメイクに当たり「車から人へ」カ点を移し、鉄道駅の自由通路やデッキ整備、自転車利用環境の充実（自転車通行空間の整備、自転車シェアリングの普及等）、緑あふれた空間の創出等、人がまち歩きをしやすい回遊性を高める取組を推進
- 集約型の地域づくりへの転換が進むエリアでは、コンパクトでスマートなまちづくりの取組を推進し、歩いて暮らせるまちを実現

戦略9 都市の機能をさらに高める戦略

人が歩いて楽しみ、暮らせるまちの創出

公共空間を活用した緑あふれ人が憩う場の創出
(例) 西新宿のまちづくり等

再開発に伴う歩きやすいまちづくり

パーソナルモビリティの充実

デマンド交通の導入

駅前広場やデッキの整備
(例) 新宿駅、池袋駅等

道路空間を活用した賑わいの創出
(例) 豊島区グリーン大通り、丸の内ストリートパーク等

サテライトオフィス等の充実

楽しく歩けるまち

既存ストックをいかした緑のネットワーク形成
(例) Tokyo Sky Corridorの実現

緑のネットワーク形成や拠点再編に合わせた自由通路整備などにより、歩いて楽しめる回遊性の高いまちへバリアフリー環境の整備

歩いて暮らせるまち

主要駅周辺への生活関連施設等の機能集約や水と緑の空間の活用により、歩いて暮らせるまちへ

子育て支援施設等の整備

鉄道駅における自由通路の整備
(例) 品川駅、東京駅等
新宿駅東西自由通路イメージパス

自転車利用環境の更なる充実

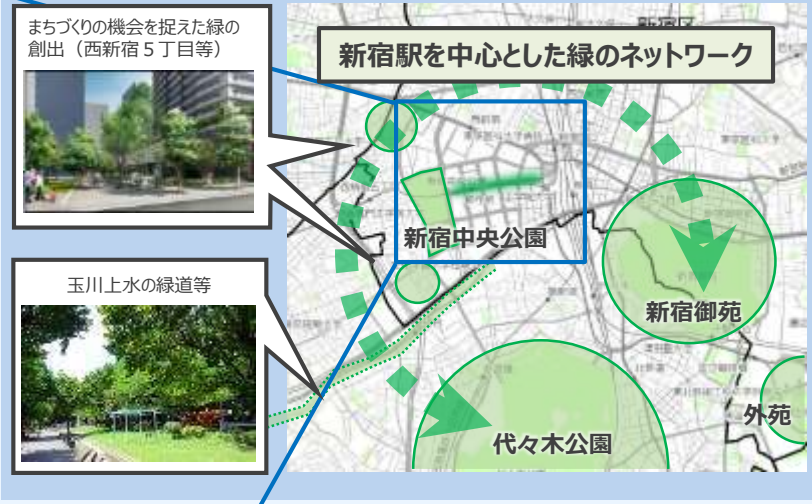
公園等豊かな緑環境

医療・福祉施設の集約

(画像提供) 東日本旅客鉄道株式会社

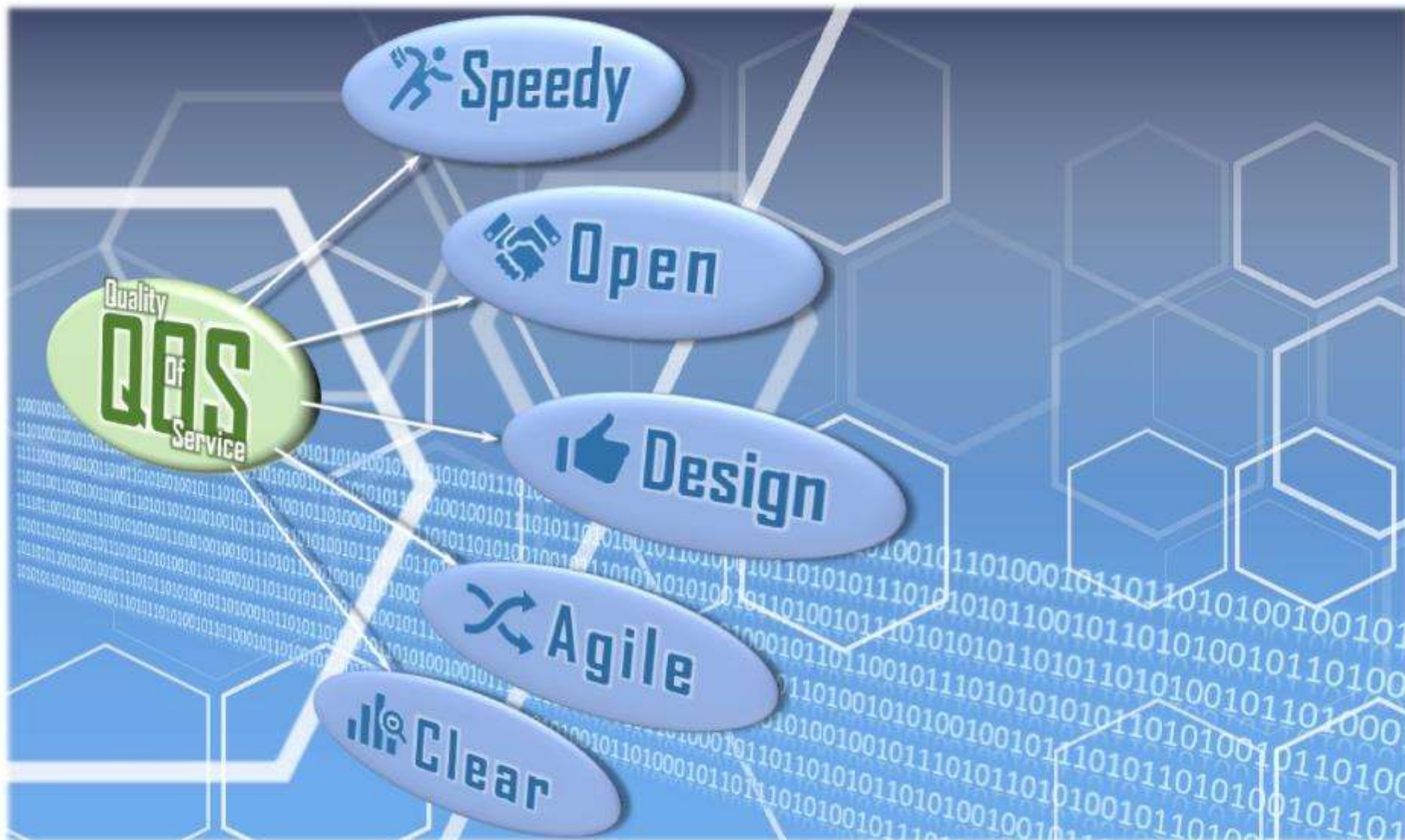
先導的な取組：人が憩える、緑が至る所にある西新宿をつくる

新宿グランドターミナルの再編や5G環境整備、次世代交通の整備等、駅周辺の機能更新を促進。新宿駅西口、新宿中央公園、玉川上水の緑道等と連携した緑のネットワーク形成と合わせ、楽しく歩けるまちづくりを推進



＜西新宿における取組例＞

<p>民間事業者による 屋内案内誘導アプリ※の導入</p>  <p>※新宿駅周辺エリアを想定</p>	<p>5G・スマートポール</p> 	<p>シェア電動 キックボード</p>  <p>(出典) 株式会社Luup HP</p>	<p>自動運転タクシー</p> 
<p>都市の3Dデジタルマップの 先行整備 (西新宿)</p> 	<p>民間活力を導入した 公園のにぎわい創出</p> 	<p>バリアフリー化の推進に よる上下動線の確保</p> 	



シン・トセイ 都政の構造改革QOSアップグレード戦略 (案)

令和3 (2021) 年 2月 東京都

当面のスケジュール

2月10日（水） 長期戦略策定会議 ※案を決定

2月12日（金） 知事定例記者会見で「未来の東京」戦略（案）を公表



2月12日～3月13日 パブリックコメント

2月15日（月）以降 区市町村説明



3月下旬 成案を公表